坂戸市立南小学校　笑顔・感動・花いっぱい

夢道場・南小だより

【学校教育目標】
○やさしく　（徳）
○かしこく　（知）
○たくましく（体）

学校経営方針　「明るく 元気に 爽やかに　すべての対応を親身になって丁寧に」

令和５年３月１０日
第３９号

令和４年度『有終の美を飾ろう！』～南小４３年目の締めくくり～

【3／2 お話朝会（オンライン）より】 おはようございます。３月になり少しずつ暖かくなってきました。梅の花も咲き、桜の花も蕾を膨らませ始めました。春の訪れを感じさせる季節になりました。３学期もいよいよ大詰めです。３月は**「去りゆく月」**。そして、**３月は「お世話になった人たちとの別れの月」**とも言われます。明日は、**「6年生を送る会」**が行われます。どの学年の皆さんも、お世話になった6年生に**「心からのありがとう」**を伝えるために、感謝の気持ちを込めて一生懸命に準備をしている姿が見られ、校長先生も嬉しくて心が温かくなっています。これまで、通学班、なかよしタイムの縦割り活動、運動会、委員会、クラブなど、様々な学校生活の中でたくさんお世話になった6年生に、改めて**「ありがとうの気持ち」**をしっかり伝えられるといいですね。6年生たちも、南小に**「最後の感謝の気持ち」**を伝えるために、**自主的に様々な奉仕作業**を行ってくれます。6年生の皆さん、よろしくお願いします。

6年生の皆さん、この南小で過ごした、**6年間、2，188日**。今日の朝、君たちの教室の「手作り日めくりカレンダー」には、**「卒業まで、あと１５日」**とありました。卒業までの残された南小学校での一日一日を、じっくりと味わいながら大切に過ごしてください。**君たちは南小の第４３代最上級生リーダーとして、本当に立派でした。**特に、新型コロナウイルス感染症予防のもと、新しい生活の約束をしっかりと守りながらも、**「やさしさ」**や**「思いやり」**を忘れず、3年ぶりに再会した様々な行事や取組にも南小の一番年長のお兄さん、お姉さんとして、常に**下級生のお手本**となって学校を引っ張ってくれていました。まさに、43年の歴史と伝統のある南小に、また**新たな伝統**を築いてくれました。本当にありがとう。

まだ、少し早いですが、4月からの中学校で活躍する皆さんを南小の全員で応援しています。

1年生から5年生の皆さん、**もうすぐ卒業していく６年生の後、どのような南小学校を創っていきますか。**これは、最上級生リーダーになる5年生はもちろんですが、今の1年生から5年生まで全員が考えていかなければならないことです。今、南っ子の皆さんが、自分たちのことで自慢できるものはどんなことですか。逆に、自分たちのことでまだまだ出来ていないな、足りないな、もっと自分たちで良くしなければならない、と思うことはありませんか。もうすぐ、新しい1年生も入学し、皆さんも学年が上がり、さらに成長したお兄さん、お姉さんとしてこの南小を背負っていくという大切な役割、責務があります。卒業していく6年生への感謝の気持ちとともに、是非、**「６年生のお兄さん、お姉さん、これからは、私たちがこの南小を引き継ぎます。任せてください。」という強い気持ち**をもって、残りの日々を過ごしてください。

終わりに、皆さんに、この言葉を伝えます。**【有終の美を飾る】**。前回のお話朝会で、人が力をつけて伸びていくために、**「節目」**がとても大切です、というお話をしました。皆さんにとって、**卒業式や修了式が大きな「節目」**です。その「節目」を強くし、未来に向かってさらに伸びていくために、皆さんは今、頑張っています。この言葉**【有終の美】とは、「最後までやり通し、立派な成果を上げる」、「終わりをしっかりと締めくくる」という言葉で、「節目を立派にする」ことです**。皆さん一人一人の**夢（＝志）**。それに向けてこれまで、目標をもって頑張り続けてきたことに無駄なことなど一つもありません。目指すは、**【やさしく・かしこく・たくましく】**。そう、**南っ子の合言葉**です。**今年度が終わる、最後の最後まで、「何をしなければならないか」、「何をすることが必要なのか」を考えて、できることから行動に移してみてください。そして、決して１人だけで悩まないでください。周りを見渡すと、これまで一緒に頑張り、支え合ってきた仲間たち、先生方がいます。南小の今年度の１年間を、最高の年として締めくくるために、引き続き皆で力を合せて『南っ子パワー全集中！』、【有終の美】を飾りましょう。**今日もお話をしっかりと聴いてくれてありがとう。終わります。

靡不有初、鮮克有終。（初め有らざること靡し、克く終り有ること鮮し）　『詩經』（中国最古の詩集）

5年生『学年の絆と学びを深めた社会科見学』

【スローガン】「実際に見たり体験したりして、環境問題や古墳について知識を深めよう」のもと、2／3(金)に加須市の**埼玉県環境科学国際センター**と行田市の**さきたま史跡の博物館**へ社会科見学に行ってきました。

《埼玉県環境科学国際センター》

環境問題について知識を深めました。人間が使用した農薬が、巡り巡って北極に住む生き物を殺してしまっていることを知りました。クイズもあり、楽しく学ぶことができました。また、自転車で発電をしたり、歯みがきをしている間に水を流し続けていた時の水の重さを体感したりする等、体験型の展示もあったので子供たちは時間が足りない様子でした。

《さきたま史跡の博物館》

【古墳めぐり】丸墓山古墳では、階段を登りきると平らな開けた場所があり、そこから**忍城**が見られました。階段は99段あったと子供たちが教えてくれました。次は**稲荷山古墳**です。ここは、社会の教科書に必ず出てくる国宝の**鉄剣**が出土した場所です。**前方後円墳**は四角いほうが前だということに驚いていました。頂上には、どのように埋葬されていたのかが記してあり、じっくりと読む姿に学ぶ意欲の高さを感じました。

【まが玉作り】まが玉作りも体験しました。まが玉は、**埼玉県の旗**にも記されています。独特な形は、胎児を表したものであると教わりました。まずは、石を目の粗いやすりで削りました。柔らかいので、少しの力で削れます。次に面を取っていくと、だんだんと**まが玉**の形が出来上がってきます。さいごに目の細かいやすりで磨き、つやを出してひもをつけて出来上がりです。子供たちは、学芸員さんの話をよく聞き、真剣に作業していました。出来上がったものを首にかけて嬉しそうにしている様子を微笑ましく思いました。**【展示物の観覧】さきたま史跡の博物館**では、**本物の鉄剣**を見ることができました。他のお客様の迷惑にならないよう、静かにじっくりと展示物を見る姿に成長を感じました。6年生で歴史の学習をする時に、きっとこの経験を思い出し、実体験を伴った深い学習になることと思います。体験を交え、楽しく学ぶことができた社会科見学、子供たちの学ぶ姿勢に感動した社会科見学でもありました。**来年度頼れる最高学年となるよう、今回作ったまが玉のように、さらに磨きをかけていきたいと感じました。**　（文：□□ □□ 第５学年主任）

【夢道場・南小『ほっとニュース』】

『学校応援団・感謝の会』を開催！

３月７日（火）、全校で感謝の気持ちを表すために、学校応援団の皆さんをお招きし、３年ぶりとなる**「学校応援団・感謝の会」**をオンライン放送で開催しました。集会委員の児童たちの自主的な運営のもと、代表児童のお礼の言葉と児童全員が書いた**「感謝のお手紙」**をお渡ししました。**学校応援団コーディネーター**として長きにわたりご尽力くださっている **□□ □□さん**からも貴重なお話をいただきました。代表児童からは、**「ボランティアでお世話になっている皆さんは、私たちの挨拶が何より嬉しいとおっしゃられています。これからもしっかりと挨拶やお礼の言葉を言いましょう。」**と全校児童への呼びかけもありました。**学校応援団の皆さん、いつも南小の児童のために本当にありがとうございます!!**

- ❑ 見守りボランティア　❑ 環境美化ボランティア
- ❑ 学校図書館ボランティア　❑ その他

＊年間を通して、学校応援団として登録してくださる方を大募集しております【保険加入の対象】。「無理なく、できるときに」参加していただける方は、学校ホームページをご覧の上、学校まで是非ご連絡ください。

【『小中連携・南小美術展を開催！】

コロナ禍で3年間活用できずにいたランチルームを使い、本校初の**小中連携の南小美術展**を開催しました。南小の代表児童の作品に加え、**坂戸中学校・千代田中学校**の生徒さん達の素晴らしい作品の数々を展示。開催期間中は授業参観・懇談会もあり、沢山の保護者の皆様や学校運営協議会委員の皆様にご覧いただくことができました。

【校長室より】『感謝の気持ちを表す』

【感謝】の【謝】は「言」と「射」の会意形成文字。かつて、なぜ「謝る」の字が入っているのか不思議に思っていた。【謝】の字は分けると、『言・身・寸』から成り立つ。【言】の字は、「言葉にする」。【身】の字で、「行動で示す」。【寸】を字は、「脈拍を測る」の象形文字から転じて「心を込める」を表す。つまり、【感謝】には、「『言葉』にして、『行動』で示して、『心を込めて』表現する」という意味があるそうだ。言葉に宿ると言われる「言霊」を感じる。身近な所で普段お世話になっている人たち。さらに目には見えない所でも大勢の人たちにお世話になっている。人が生きていくこと、全てが『お陰様』。全ての人に対し感謝の気持ちを忘れず、「心を込めて、言葉にし、行動で示す」。これからも大切にしたい。